

医師は語る



医療法人社団健翔会
堀口医院 理事長
堀口 裕

新年、あけましておめでとうございます。今年も皆様にとって健康の一年でありますように、この年から願っております。

人生において、健康が何よりの宝物です。健康であれば、大抵のことは乗り越えることができます。そして楽しく、幸せに過ごすことができます。しかし、健康は努力なしに得ることはできません。日々の忙しいときこそ、自分の体の手入れを怠らないで下さい。

病気の始まりに自覚症状はない

残念なことに、殆どの人は自分自身にも苦痛感がないなら、それは健康の証拠だと思ひ込んでいます。しかし、いざ病気になるまで、普段から特別な自覚症状もなかったはずなのに、それなのに病気になるってしまったことに気づきます。実際、病気になる様子を実感しながら病気になる人など、一人もいません。病気に至るまでは無症状です。それでは病気が診断されるまでに、体の中では、一体何が起きているのでしょうか。それは病気が起こるための準備段階であり、これを「病気の根」と呼んでいます。もう少し簡単に言えば、大腸力メラをして2cmのポリープが見つかったも、それは手品のごとく一瞬にして眼で見える大きさになったとは、到底考えられません。

はじめは見えなかったのです。はじめは小さくて、眼に見えないポリープだったはずですが、これを「病気の根」と考えて頂いても構いません。これでお気づきと思います。が、現代の医療は眼で見えるもの、あるいはコレステロールの値や腎臓の働きの数字のように異常と確認できるものを対象にした医療なのです。これは日本にかかわらず、世界共通のことです。この現代医療は、今後必要であることは言うまでもありません。しかし、これだけでは病気をなくすることはできません。MRIやCT、超音波検査では見ることのできないもの、いわゆる「病気の根」を取り除く医療も必要であります。もし絶えず病気の根をなくしておけば、私たちは病気になることはありません。きっと老衰のごとく終わっていくでしょう。

病気の根をみる

それでは「病気の根」をどのように捉えたら良いでしょうか。もともと病気が起こるのは、私たち一人一人の体に起こります。そして多くの場合、はじめは病気がなかったのに、日々過ごしているうちに段々と病気ができます。このことから病気は、人の体の中で少しずつ病気になる易い状態ができたためと考えられます。言い換えれば、人にもともと病気を防ぐ力があって、それが丈夫なうちは病気にならないが、それが弱くなると病気になるということですね。このような力を自己防御力と言います。この自己防御力の低下こそが、「病気の根」であります。そうしますと自己防御力を調べることであれば、病気が発生していない場合であっても、将来的に自分に病気が起こる可能性があるかどうかを知ることができます。私は10年ほど前にこの検査法を確立し、現在、堀口医院をはじめ幾つ

かの医療機関で行うことが出来るようになりました。この診断は①細胞の元気度、②免疫力の丈夫さ、③炎症の鎮静度の3つからなっています。①と②は私のオリジナルです。③の測定はラジカル生成能といって、これは東京の検査会社株「SRL」さんで行っている検査です。それぞれの項目について「1, 2, 3, 4, 5」の5つの段階に分け、「1」が一番悪く、「5」が一番良い評価です。3つの項目をすべて足して3で割り、平均値が「3.3」以上になれば「自己防御力がある」と判定します。しかしこれがなかなか難しいのです。最初から合格する人が、少ないのです。何故多くの人が病気になるのか、その理由がまさにここにあったのです。自覚症状は一切なくても、すでに自己防御力の低下があり、いつ何時でも病気が起こる準備ができています。

自己防御力診断の構成



人生の満足感は最後にきまる

床に伏した殆どの患者さんが言います。「何故こんな病気になったのか？ずっと元気だったはずなのに……」。もっと健康に気を付けておけばよかったな。あるいは、たとえ床についていない患者さんでも「人

の世話にだけはなりたくない。家族の者だけには面倒をかけたくない。」そう言います。また世の中で大きな功績をあげ、名を残すような人であっても、病気で倒れると「もうちょっと元気で過ごしたかった。」そう言って寂しそうな顔をされます。これが本音でしょう。そんな患者さんのお話を聞いていて、人生の満足感は、最後に健康で過ごせたかどうかでできると感じます。しかし一生健康であり続けるためには、漫然と過ごしていても叶いません。一人一人が病気の根を抜くという日々の努力が必要なのです。そのことを決して忘れてはなりません。

【堀口裕先生プロフィール】

北海道出身。川崎医科大学医学部卒業。一九九二年香川県坂出市で医療法人社団健翔会堀口医院を開院。現在堀口医院理事長兼院長を務める。世界で初めて細胞の中を調べる「細胞内検査」を独自に考案され、世界各国で特許を取得。またその細胞のコンディションを取り戻すための「還元電子治療」を独自に開発。二〇一一年五月、世界中医薬学会連合会、自然療法研究専門委員会、副会長に就任。現在は、病気の根を調べる「自己防御力診断」と病気の根を治療する「還元電子治療」を駆使し、全国で一万六千人以上の患者の治療に取り組む傍ら、「根元の医療」と呼ばれる新しい医療を推進し、全国で講演活動を行っている。

